**ハンドマイク街頭演説原稿例　　通常国会閉会・都議選**

二〇二一年六月十八日　日本共産党埼玉県委員会・作成

ご近所のみなさん、こんにちは。日本共産党です。本日はこの場所をお借りして、日本共産党の政策を訴えさせていただきます。しばらくの間ご協力をお願いいたします。

　みなさん、１月から始まった通常国会が、１６日に閉会しました。コロナ対応をはじめ国会で議論すべき重要課題は積み残されたままであり、日本共産党はじめ野党は会期の延長を求めていました。ところが、菅自公政権は会期延長を拒否し、国会を閉じてしまいました。自分たちのやりたいことだけはしっかりやって、国民の命と生活を守るために必要なことは放り投げて国会を閉じるなど、許されない暴挙ではないでしょうか。

　みなさん、菅政権と自民・公明の与党はこの通常国会で、高齢者の医療費負担を２倍化する法律や、米軍や自衛隊の基地周辺の住民を監視する土地利用規制法を強行しました。新型コロナで多くの国民が苦しんでいる中、国民に負担を押し付ける悪法ばかり進めるなど、とんでもないことではないでしょうか。

　その一方、菅政権には、これまでのコロナ対策の失敗への反省がひとかけらも見当たりません。コロナを封じ込めるために必要な大規模ＰＣＲ検査には及び腰、コロナの影響で収入の減った医療機関への減収補てんには背を向け、中小業者への持続か給付金などの支援策は１回かぎりで打ち切ってしまいました。

　国民に長期にわたる我慢と苦難を求める一方で、感染拡大のリスクを広げる東京オリンピック・パラリンピックの開催にあくまでこだわる菅自公政権の態度は、たいへん重大ではないでしょうか。世論調査を見ても、中止・延期を求める声が多数です。埼玉県はパブリックビューイングを中止し、さいたま市など多くの市町村は、子どものオリンピック・パラリンピック観戦の計画を取りやめたり規模を縮小したりしています。オリンピック・パラリンピックの強行は、多くの国民の思いに反するだけでなく、オリンピック・パラリンピックの名前に泥を塗ることになるのではないでしょうか。

　オリンピック・パラリンピックのため、一層の自粛と我慢を国民に求めても、理解は得られないのではないでしょうか。菅首相は無責任な態度を改め、オリンピック・パラリンピックの中止を決断し、コロナ対策に集中するよう、日本共産党は強く求めていきます。

　みなさん、お隣の東京都では、７月４日投開票で東京都議会議員選挙がたたかわれます。都内へは埼玉から毎日93万人が通勤・通学し、都内在住の家族や知人がいる方も少なくありません。今度の都議選の結果は、みなさんの仕事やくらしに少なからず影響が与えることになります。共産党都議団の躍進は、職場での社会的検査の拡大など都独自のコロナ対策の充実、小池都知事の東京五輪の中止決断へ大きな力となります。そして、何よりも、来るべき総選挙に向けた政権交代への野党共闘の深化に大きなインパクトをあたえるものとなります。今度の都議選では、みなさんの大きなご支援を日本共産党にお寄せいただきますよう、よろしくお願いします。

　最後に、スクープ連発で広く注目をあつめている「しんぶん赤旗」を、この機会にぜひご購読いただきますようお願いいたしまして、この場所をお借りしての日本共産党の政策の訴えを終わります。ご協力ありがとうございました。（了）